

# 泉南市統計書

令和3年度版



泉南市マスコットキャラクター

せんなんくまじろう  
「泉南熊寺郎」



## は じ め に

平素は、市政の運営に格別のご高配を賜り心から厚くお礼申し上げます。

このたび、令和2年に実施されました国勢調査の結果も含め、最新の市勢に関する統計情報を集録し、泉南市統計書（令和3年度版）を編集いたしました。

本書は、泉南市の人口、産業、経済、福祉、教育、文化等の各分野にわたって、基本的な統計資料を総合的かつ体系的に集録し、市勢の現状並びにその推移発展を明らかにしようとするものです。

社会経済情勢がめまぐるしく変化し、様々な情報が氾濫しているなか、公的機関が発する統計情報の持つ意味はとても重要だと感じております。本書が行政施策はもとより経済活動、学術研究等のあらゆる活動の一助となり、多くの方々に幅広く活用していただければ幸いに存じます。

編集にあたっては、利用者の方が「見やすく、理解しやすい統計書」を目指し、資料の選定、内容の取捨、様式の改善に配慮いたしましたが、なお不十分な点につきましては今後とも各方面からのご指摘、ご指導いただき一層の改善、充実に努めてまいりたいと存じます。

最後になりましたが、本書の編集にあたりまして、貴重な資料を提供していただきました関係各位に対し、深く感謝いたします。

令和4年3月

泉南市長 竹 中 勇 人

## 市 の 沿 革

泉南市の歴史は古く、大阪湾の別名である「茅渟<sup>ちぬ</sup>の海」の謂<sup>いわ</sup>れとなったことがらが日本書紀にも記載されています。

白鳳時代には古代寺院である海会寺<sup>かいえじ</sup>が建立され、文化や人々の交流が盛んな地域であったことが伺えます。

平安時代末期には、当時盛んであった熊野詣の参詣者の宿場町として、江戸時代には紀州公の参勤交代時の宿泊所として栄え、市内を横断する街道沿いには今も往時の面影を今に伝える建物が点在しています。

また、江戸時代の泉州地域は、和泉木綿の産地として名を馳せ、紡績産業はその後、昭和の時代まで地場産業として地域経済を支えてきました。

昭和31年に6町村が合併して「泉南町」、昭和45年には単独で市制を施行して「泉南市」となりました。市制施行時38,000人余りだった人口は住宅開発に伴い急激に増加しました。

平成6年、本市沖合に関西国際空港が開港し、関空対岸にあるりんくうタウンは本市にとどまらず西日本における広域的な人、モノ、情報の国際交流の拠点となっています。

市制施行50周年の節目をむかえた令和2年にはりんくう公園が整備され、大型ショッピングモールとの相乗効果による新たな賑わいの場としての期待がますます高まっています。

## 凡 例

1. 本書は、泉南市の市勢全般にわたる基本的な統計資料を総合的に集録したものです。
2. 本書は、原則として、最新5ヶ年の資料を集録しましたが、主要な項目については、資料の保存、比較対照の便を考慮し、できるだけさかのぼって集録しました。
3. 資料は、各官公庁、団体、会社及び庁内各部課などからの提供、報告によるもの、又は当課において直接収集したもので、資料の出所名は、各表下部に掲げました。
4. 統計表は特別の表示及び注釈のない限り、泉南市を範囲にしています。
5. 統計表中、説明を要する箇所は脚注をし、数値の単位については、各表上部に注記しましたが、一見して明らかなものは省略しました。
6. 調査、資料の時点及び時期については原則として、各表上部に注記しておきましたが、本表中の年次、年度及び年月日は次のとおりであります。  
年 次 …… 暦年（1月～12月）  
年 度 …… 会計年度（4月～翌年3月）  
年月日 …… 記載期日を現在とする。
7. 数字の単位未満は、四捨五入を原則としました。従って、合計と内訳とは一致しないことがあります。
8. 統計表中の符号の用法は、次のとおりであります。  
「0」 …… 単位未満  
「―」 …… 皆無又は該当数字なし  
「…」 …… 不明又は不詳  
「X」 …… 該当数字の公表をさし控えたもの  
「△」 …… 負数
9. 本書に集録した資料について、さらに詳細な数字が必要な場合又は疑義のある場合は、各統計表の出所機関又は本市総務部総務課に照会して下さい。